

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌



JAMA vol.53
2019
[July]

7 月号

巻頭インタビュー

小島

正清

「自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長(トヨタ自動車・パワートレインカンパニー パワートレイン先行企画室室長) 自動車博物館関連施設紹介シリーズ ヤマハ発動機/「自動運転社会を見据えながら、モータースポーツ活動にも注目が集まる」

自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長(トヨタ自動車・パワートレインカンパニー パワートレイン先行企画室室長)

自工会・企画部会/WG「バリアフリー調査会」第2弾実施
人とするまのテクノロジー展2019横浜

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

ヤマハ発動機/「自動運転社会を見据えながら、モータースポーツ活動にも注目が集まる」



JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会

2019年7月自動車関連イベント

 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内主要イベント

日時	場所	名称
7月 17-19日	愛知県 ポートメッセなごや	人とくるまのテクノロジー展2019名古屋
19-22日	福岡県 マリンメッセ福岡	メガスーパーカーモーターショー
20-21日	東京都 東京ビッグサイト	東京キャンピングカーショー2019








国内モータースポーツ

日時	場所	名称
7月 5-7日	北海道 ニセコ町・蘭越町・倶知安町	 全日本ラリー選手権 第6戦 ARKラリーカムイ
7日	宮城県 スポーツランドSUGO	 全日本モトクロス選手権 第4戦
14日	静岡県 富士スピードウェイ	 スーパーフォーミュラ 第4戦
14日	北海道 わっさむサーキット	 全日本トライアル選手権 第4戦
14日	広島県 世羅グリーンパーク弘楽園	 全日本スーパーモト選手権 第4戦
21日	大分県 オートポリス	 スーパー耐久 第4戦
21日	岩手県 藤沢スポーツランド	 全日本モトクロス選手権 第5戦
26-27日	静岡県 富士スピードウェイ	 FORMULA DRIFT JAPAN 第3戦
26-28日	秋田県 横手市	 全日本ラリー 第7戦 横手ラリー
27-28日	北海道 十勝スピードウェイ	 D1グランプリ Rd.3&4 HOKKAIDO DRIFT
28日	三重県 鈴鹿サーキット	 EWC 第5戦 鈴鹿8時間耐久ロードレース

海外主要イベント

日時	場所	名称
7月 3-6日	中華人民共和国 上海	上海国際自動車産業総合展
3-7日	タイ バンコク	バンコク オートサロン2019
4-7日	イギリス ウェストサセックス	グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピード
18-28日	インドネシア ジャカルタ	ガイキンド インドネシア国際オートショー2019

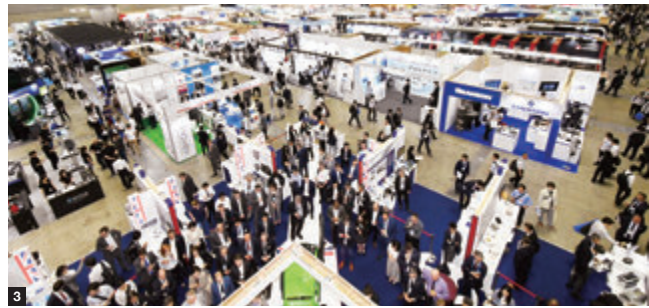
海外モータースポーツ

日時	場所	名称
7月 7日	ドイツ ザクセンリンク	 Moto GP ドイツGP
7日	イギリス ドニントンパーク	 ワールドスーパーバイク 第8戦
13日	アメリカ ニューヨーク市街地コース	 FORMULA E 第12戦 ニューヨークシティE-PRIX
14日	イギリス シルバーストーンサーキット	 F1 第9戦 イギリスGP
14日	アメリカ ニューヨーク市街地コース	 FORMULA E 第13戦 ニューヨークシティE-PRIX
14日	アメリカ ウェザーテック・レースウェイ・ラグナ・セカ	 ワールドスーパーバイク 第9戦
28日	ドイツ ホッケンハイム	 F1 第10戦 ドイツGP

JAMAGAZINE 2019年 7月号

発行日 2019年6月28日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02

巻頭インタビュー

自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長
(トヨタ自動車・パワートレーンカンパニー パワートレーン先行企画室主査)
小島 正清氏

「自動運転社会を見据えながら、 モータースポーツ活動にも 注目が集まる」

06

自工会・企画部会/WG 「バリアフリー調査会」第2弾実施

08

人とくるまのテクノロジー展 2019横浜

11

ニュースリリース

『8月19日はバイクの日
HAVE A BIKE DAY』のご案内
自工会・エコドライブへの理解促進ツール
理系女子応援イベント

14

15

18

Topics

2019年度 小学生を対象に
「クルマのある風景」の写真を募集

19

第7回カーデザインコンテスト 受賞者と作品紹介【パートII】

20

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

ヤマハ発動機/コミュニケーションプラザ

21

記者の窓

「くるまと走った支局時代」 毎日新聞社 小坂 剛志

1 自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長
(トヨタ自動車・パワートレーンカンパニー パワートレーン先行企画室主査)
小島 正清氏

2 自工会・企画部会/WG「バリアフリー調査会」第2弾実施

3 人とくるまのテクノロジー展2019横浜

4 第7回カーデザインコンテスト

5 ヤマハ発動機/コミュニケーションプラザ

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





大きな転換点で
モータースポーツが
果たす役割とは



自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長
(トヨタ自動車・パワートレーンカンパニー
パワートレーン先行企画室主査)

小島 正清氏に聞く

自動運転社会を見据えながら、 モータースポーツ活動にも 注目が集まる

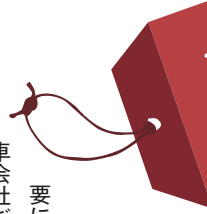
自動運転社会の到来を見据え、いま日本の自動車産業は大きな転換点を迎えています。CASEやMaaSという言葉に代表される新しい潮流が押し寄せ、自動車メーカー各社は会社の枠、そして業界の枠を超えてその対応に取り組んでいるところです。一方、若者のクルマ離れが進み、クルマに関心を持つユーザーも少なくなる中で、メーカー各社が威信をかけて戦うモータースポーツ活動に注目が集まっています。クルマ本来の魅力である走る喜びを訴求するだけでなく、人材育成の場、そしてモノ作りを支える技術的な側面からも、その役割が重要視されているところです。こうした中、自動車技術会・モータースポーツ部門委員会は、モータースポーツを自動車技術の一分野として確立させるため、技術、学問および文化などの面から総合的な探求を行っています。自動車産業が100年に一度の大変革期に直面する中、モータースポーツはどのような役割を果たしていくのか。小島正清委員長にお話を聞きました。

技術と文化両面から 最先端の技術まで

「モータースポーツ部門委員会
を設置した狙い、背景を教えてください」

「モータースポーツには興行的な側面と人のスポーツとい

う側面、そして技術的な側面があります。自動車技術会としては技術的な観点および文化という面からモータースポーツを支えていきたいと考えています。モータースポーツにはレギュレーションの策定などを担う日本自動車連盟や競技のオーガナイザーなど興行的にサポートす



る業務がある一方、それを支えるモノ作りも重要になります。それを自動車会社だけではなく、輪軸メーカーや部品メーカーも含めて、モータースポーツ部門委員会の中で意見を交換しながら、各社のモータースポーツ部門の関係を深めていく場として設立したという経緯があります」

「2003年に研究会として始まり15年が経ちます。どのような活動を展開されていますか」

「基本的には年6、7回開催している委員会が中心です。各社のモータースポーツ活動に関わる担当者が集まり意見を交換しています。また、年に1回シンポジウムも開催しており、様々な発表を行なっています。ここをいろいろなカテゴリーの状況や他社の活動などの情報が収集できる場として広く一般の方も参加できるようにして提供しています」

「委員会では各社の先行技術なども共有するのですか」

「委員会と言っても最先端技

術を出すわけにはいきません。モータースポーツは底辺レースからトップカテゴリーまで裾野が広がっており、技術的な話ばかりしているわけではありません。前は高校生が部活動として行っているレース活動も話題になり、将来のメカニク育成みたいな側面も含めて情報交換をしています。裾野を広げるような活動も展開しているのです。最先端の技術的な話から文化的な話まで多岐に渡ります」

市販車開発に向けた活用と応用になる

「メーカーのモータースポーツ活動は市販車開発にどう活かしているのですか」

「この部品がそのまま市販車にも活かされるというのは実は少し難しいです。レースではコストの問題や開発期間、法的な制約を外しているからです。そうした技術はすぐに市販車に反映されるわけではありません」

「ただ、要素技術的なものは活かされていきます。例えば冷却。私が所属しているトヨタは

WEC(世界耐久選手権)に参戦していますが、このマシンに積んでいるモーターはかなりコストをかけて冷やしています。市販車ではそこまでやらなくても大丈夫ですからその一部を低コストで導入してやれば十分に活用できる技術になるわけです」

「それとモデルベース開発でしようか。レースでは開発期間が極端に短くトライアンドエラーの繰り返しです。実際に部品を作る前にコンピューターでシミュレーションするのはモータースポーツが先行しています。空力開発にしてもすべてを風洞に入れるわけにはいかないのでコンピューター上で素早く形状検討のサイクルを回して効果の高いものを風洞で確認して実車に織り込むという事をしていきます。コンピューターを活用したモデルベース開発による開発スピードアップは市販車にも活かされています」

「軽量化などの他の技術はどうですか」

「例えばCFRP(炭素繊維強化プラスチック)は市販車でも

使われて始めていますが、これもレースで過去から採用してきた要素なんです。生産技術の進化が寄与して市販にも採用され始めているのでしょうか。僕が覚えている中で一番すごいなと思ったのは直噴技術です。実はドイツメーカーが1950年代に使っていた技術なんです。市販車で直噴が出てきたのは90年代です。モータースポーツでは制約を外してトライしているのです。なかなかすぐ分かります。市販車向には活きないんです。ただ優れた技術は生産や材料といった周辺技術がそろって、将来的に活かしてくることになると思っています」

モータースポーツが人材を育て、鍛える

「今の市販車技術を見ても、10、20年前のモータースポーツで培った技術が生かされているのですね」

「そうですね。だからこそ、自動車メーカーのモータースポーツ活動は、市販車開発という観点からも継続しなければなら



自動車技術会・モータースポーツ部門委員会委員長
（小島自動車・パワートレーンカンパニー パワートレーン先行在籍者主導）
小島 正清氏 に聞く

ないと思います。もう一つの側面が人材育成です。モータースポーツは戦いの場なのでトライアンドエラーを繰り返して、PDC Aサイクルを早く回さなければなりません。そうした環境下でこそ人は鍛えられます。モータースポーツ活動の意義は技術だけではなくありません。それは二輪だろうが四輪だろうが、自動車メーカーだろうが部品メーカーだろうが一緒だと思えます。レースでは毎戦、勝った負けた、速い遅いのはつきりする。その中で鍛えられるエンジニアは大きく成長する。そして育ったエンジニアが市販車開発を担当すれば、スピード感であったり、周囲の協力体制を作っていくという面であったり、そういった力を発揮するという意味では、モータースポーツが市販車開発に貢献していると言えます」

「自動車の電動化という潮流に対して、モータースポーツが貢献できることはありますか

「モータースポーツは小型軽

量化という部分が性能向上に効くので、これを推し進めています。この小型軽量化につながる要素技術の創出という意味では貢献できると思っています」

「また電動化と一言で言いますが、何のために電動化しているかと言うと、エネルギー効率を高めるためです。エネルギーを脱石油または省石油にしようというのが電動化なんです。今やモータースポーツはガソリンの流量を制限して出力を制限している。その中でモーターをしながら効率を上げています。効率を上げないと勝てないというレギュレーションの中で戦っている。そうなると電動化というキー要素が、長い時間をかけて、市販車にも貢献していくんだと思うと思っています」

「モータースポーツも環境を配慮する流れになってきているのでしょうか

「爆音を鳴らして燃料を巻き散らすというのは、さすがにオールドファッションだというのは業界の共通認識ですし、世界的な流れです。それを無視して

は通れない。1つの解決策に電動化が入ってくるわけですが、オーガナイザーや運営側がそうしたレギュレーションにしてしまえば、われわれ技術者はその中で競争を始めます。誰もが勝ちたいわけですから」

クルマは楽しいもの eスポーツも間口

「若者のクルマ離れが叫ばれて久しい。モータースポーツが果たす役割は今こそ重要になっていると思います

「クルマを単なる移動体として捉えると、だんだんと「コティティ化していくと思います。全体的には楽に移動できればいいというところに行くかもしれないですが、一方で、一部はやっぱり楽しいと思っている人もいます。その人たちがまだモータースポーツに視線を向けていてくれるように、われわれは頑張っているかなければならないと思います」

「全員が全員視線を向けることはないと思っています。ちょっとでも興味のある人たちをわざわざ留めておくためにもドラ

イバーやメーカーも頑張らないといけない。間口を広げる取り組みも必要でしょう。もともと身近にモータースポーツとの接点が増えれば、それはそれで集まるだろうし、そこをサポートしていくのが自動車技術会、モータースポーツ部門委員会だと思っています」

「eスポーツの可能性は。モータースポーツの魅力を訴求する1つの役割かもしれません

「間口としてはいいと思います。モータースポーツを実際にやろうとすると、すごくお金がかかりますからね。ゲームをきっかけにクルマで楽しいなと思ってくれる人を少しでも引き寄せられればそれでいいと思う。間口がちゃんとあることが重要。接点は少しでも多いほうがいいですから」

「日本にはモータースポーツ産業が育たないという声もあります」

「シャシーはイタリアのダラーラだったりしますが、実は、



90年代のカラーレビンも所有していた時期があります



マイカーの「レクサスRX」と小島さん



趣味の競技用自転車でトラックを快走する小島さん



「ロボレースなども行なわれるようですが、個人的な考えを述べさせていただくと、人の戦

—CASEやMaasが進展する中、モータースポーツはどう発展していくと思えますか

—人の競う姿が重要でデータが自動運転にも

「表立って見えないから華やかな感じはしないですが産業としてちゃんと存在していると思っています」

「ロボレースなども行なわれるようですが、個人的な考えを述べさせていただくと、人の戦

—CASEやMaasが進展する中、モータースポーツはどう発展していくと思えますか

—人の競う姿が重要でデータが自動運転にも

「表立って見えないから華やかな感じはしないですが産業としてちゃんと存在していると思っています」

ラムタセンサーやメタルなど部品を細かく見ていくとは日本製が多い。リングに至っては日本のメーカー以外はほとんど採用していない状況です。見えにくいだけで、全てがヨーロッパ製じゃないんです。スーパーGT（GT500）で使っているフレームは東レカーボンマジックが製作しています。得手不得手があるんです。シャシーは過去から作っているのがタララが強い。ただ、個別部品になると実は日本は頑張っているというのが委員会の共通認識です。サプライヤーもビジネスとして回っている。

「いが見えないと厳しいと思えます。興行的、文化的な側面から言うと、やはり人が争うところ、モータースポーツの魅力があると思えます。電動化に関して言うと、フォーミュラEは既存のレースと棲み分けしていく気がしています。純粋なEVはパワートレインとしてはある一つのソリューションになり得るからです。今のところ絶対的な出力の維持性とマックス値は内燃機関に勝てないものの、速度域が低く安全も比較的担保しやすいので市街地ではやりやすいと言えます」

profile

1996年トヨタ自動車株式会社入社。初代Prius等HV用エンジンの開発を担当。2002年から3年間F1用エンジンの検討に参加。2005年から再び市販HV用のエンジン開発を担当。

2017年8月にGRモータースポーツ開発部部長。2019年からはパワートレイン先行企画室主査。自技会には2000年に入会し、2018年9月よりモータースポーツ部門委員会委員長。愛知県一宮市出身。

京都大学工学部工学研究科化学工学専攻修了。

「モータースポーツは1歩進んでいるのかもしれない。将来的に自動運転が始まったら、おそらくクルマのデータは集中管理することになるでしょう。これまであまり考えたことはなかったのですが、モータースポーツの技術が活かされるかもしれませんね」



バリアフリーマップ作成に向け 第2弾は障がい者団体も参画

「誰もが安全、効率的で自由に移動できる」社会・環境づくりの実現へ。

自工会・企画部会/ワーキンググループ(WG)は5月24日、「バリアフリー調査会」第2弾を臨海副都心エリアで実施しました。今回は自動車関連団体(日本自動車会議所・日本自動車研究所)および障がい者団体の方々にも参画していただき、特に車いすユーザーの視点でアドバイスをいただきながら調査を実施しました。自動車業界は高齢者や障がい者を含めたとすべての人の「自由な移動」と「交通事故ゼロ」を掲げるとともに、20年7月の自動運転実証の公開で未来のモビリティ社会像を提示することとしております。加えて、自工会・企画部会/WGはソフレガシー活動の一環でバリアフリー社会の実現に取り組み、バリアフリーマップ作成のためのデータ収集と実態調査を実施しています。

■「心のバリアフリー」の推進

同エリアでの調査は昨年11月に続いて2回目。企画部会/WGのメンバー23人とともに、今回は車いすユーザーの方たちの視線による意見なども取り入れようと、「認定NPO法人 D P I 日本会議」メンバーにも調査にご協力いただきました。

冒頭の心のバリアフリー講演会では、同団体・バリアフリー部会の山崎涼子さんにご登壇いただき、日頃の移動において障がい者として不便や疑問に感じることなどをお話しいただくとともに、障がいの社会モデルの考え方や、ユニバーサルデザインの重要性について解説いただきました。

■緻密な現地調査を実施

調査エリアは台場駅周辺を中心とした全長19.92kmで、6班に

分かれて調査しました。専用タブレットに調査経路(リンク)と経路の区切り(ノード)、経路種別施設(アイコン)を入力。目視確認、写真撮影をはじめ、歩道の幅員、傾斜、段差などを計測。また、横断歩道、音声信号の有無、駅出入口の階段やエレベーター、トイレ施設、案内板、スロープなども調査、車いす利用での利便性などもユーザーのお話を伺いながら情報収集しました。

■当事者の生の声から学ぶ

調査後の振り返りでは、各班が調査で得た気付きや感想を発表。特に車いすユーザーの同行によって「健常者では推測しきれないことが理解できた」「障がい者の立場に立ったハード、ソフト両面の改善が必要と感じた」「公道・私有地のバリアフリーの一貫性、連続性が必要ではないか」「今後は困っている人に声掛けするよう、自分の行動を振り返りたい」など当事者の生の声やアドバイスに気付きが多かったようで、体験を通して今後の各自の行動変容に向け意識を高めることができました。

講演会



振り返り



現地調査



重点調査項目

〈数値〉

- 勾配(傾斜) ● 幅員 ● 段差

〈設置有無〉

- パリアフリートイレ(オストメイト対応、ベビーチェア、ベビーシート含)
- エレベーター ● スロープ
- 階段 ● エスカレーター
- 横断歩道(音声の有り無し含)

バリアフリー調査 各委員からの感想

日産自動車株式会社 蓮沼 久子氏

「困っている人にお声がける勇氣を持つこと。実際に車いすをご使用している方からお話を聞くことができ、心のバリアフリーの重要性を感じました。今回の気づきを一過性のものにならないようにしていきたいと思いました。」

トヨタ自動車株式会社 池田 雅隆氏

「調査前の講演で障がい者本人ではなく、社会側にある「障がいの社会モデル」を学びました。その後の車いすユーザーの方を交えた調査会では、バリアフリー整備が進んでいるお台場でも、まだまだ社会側に障がいがある現実を目の当たりにしました。ハード面をすぐに変えることは難しいですが、ソフト面は私達が行動を変えれば、今日から変わることができます。ちょっとした気遣いや意識で誰もが住みやすい社会に一歩近づくことを知る、良い機会となりました。」

2020年に自動運転実証を公開

自工会は「世界で最も安全、効率的で自由なモビリティ社会」の実現に向けて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前の7月6日(月)～12日(日)に、自動運転実証を公開します。

自工会加盟会社10社(計約80台)が参画、試乗イベントも開催予定です。

期間

2020年7月6日(月)～12日(日)7日間

開催エリア

羽田空港地域、羽田-臨海副都心～都心部、臨海副都心地域

人とくるまのテクノロジー展2019横浜 (5月22~24日開催)



国内最大の最新自動車技術を集めた展示会
自動車メーカー12社やサプライヤーなど624社・団体が出展
通信、IT系も参画して
次世代モビリティ開発交流の場に

日本最大の自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2019横浜」が5月22~24日、パシフィコ横浜で開催されました。自動車メーカーやサプライヤーなど624社・団体が出展し、最新の技術や製品を披露したほか、キーパーソンの講演や最新車両11車種の試乗会を実施。3日間で9万5900人が来場し、自動車技術の最先端に触れました。通信会社やIT企業も参画し、次世代のモビリティを開発するための交流の機会となりました。



DAIHATSU

レストアしたレーシングカー「P-5(II型)」を展示

ダイハツ工業は、社内の有志が中心となり、50年前の車両をレストアしたクラシックレーシングカーを展示しました。最先端の技術が集まる「人とするまのテクノロジー展」だけに、手作り感のあるこの車は、一際注目を集めていました。

レストアしたのは、1968年の「日本グランプリGP-1クラス」で優勝した「P-5(II型)」です。同社では、それから50周年を迎えたことを記念し、レストアプロジェクトを開始。技術伝承を狙い、ベテランから若手まで幅広い層のエンジニアが力を合わせ、実動車の復元に成功しました。今後は、イベントなどに活用していく方針のようです。



ISUZU

エルフに搭載した新エンジン「4JZ1」を紹介

いすゞは、小型トラックの「エルフ」に2018年から採用している新エンジン「4JZ1」の特長を紹介しました。このエンジンは、排気側も可変バルブタイミングを採用するなどし、燃費を改善したほか、信頼性、メンテナンス性も改善。さらに、従来はエンジンとは別に配置していたDPDをエンジン側面に装着したことにより、尿素SCRが搭載される場合でも架装性を損なわない仕様になっているようです。このほか、DPDとエンジンの距離が縮まったことにより、温度も保持しやすくなったとのこと。



TOYOTA

「電動」「知能」「情報」の3テーマに焦点絞り

トヨタ自動車は、「電動化」「知能化」「情報化」といった次世代モビリティを構成する3種類のテーマに焦点を絞り、研究開発の成果を発表しました。特に注目を集めていたのが、「覚醒度推定技術」です。これはドライバーリングを使用し、表情やボディーランゲージなどをとらえ、ドライバーの覚醒度を推定するシステムで、自動運転に必要な不可欠となる技術です。赤外線カメラと距離センサーで認識した目、口の特徴と顔の向き、動作の特徴を検出し、独自のアルゴリズムで推定することにより、ドライバーが自覚していない段階でも覚醒度低下の兆候を検知できるそうです。



SUZUKI

「ジムニー」のVRシミュレーターが大人気

スズキは四輪、二輪、マリンス事業の最新モデルや技術を紹介しました。19年ぶりに復活した「カタナ」や、20年ぶりにモデルチェンジした「ジムニー」などが来場者の目を引いていましたが、最も人だかりができていたのはジムニーの走りを体感できるVR(仮想現実)シミュレーターです。雪道や岩山、砂浜などをジムニーで走行している視覚体験できるほか、走行環境に合わせてステアリングやシートなども振動し、臨場感のある走行をヴァーチャル上で体験可能とあつて、ベテランのオフロードファンから若年の女性まで幅広い層の方が楽しんでいました。



NISSAN

電動化技術を中心に「リーフe+」の電池など展示

日産自動車は、電動化技術を中心に展示しました。その一つが、1月に発表した「リーフe+」に搭載したリチウムイオン電池です。セルの特性や溶接方法の見直しにより、電池パックのサイズを変更することなくエネルギー密度を25%、容量を55%増の62kWhに高めたようです。新型電池パックの採用でリーフe+はJC08モードで570キロメートルの航続距離を実現しました。

また、今秋発売予定の新型「スカイライン」に投入するレベル2以上3未満の自動運転技術「プロパイロット2.0」も紹介しました。



SUBARU

同社初のPHV「クロストレックハイブリッド」展示

スバルが展示したのは、昨年末に北米で発売した同社初のプラグインハイブリッド車(PHV)「クロストレックハイブリッド」です。ハイブリッドシステム自体はトヨタ「プリウスPHV」の技術を活用しているものの、縦置きエンジンと変速機を直列で配置する独自の技術「シムメトリカルAWD」を使用するため、エンジンをはじめ、多くの部品を新たに設計開発しています。日本や中国での販売計画はないようですが、クロストレックハイブリッドで培った電動車開発の技術を今後の開発に生かしていくそうです。



MITSUBISHI MOTORS

「電動ドライブハウス」のコンセプトを紹介

三菱自動車は、プラグインハイブリッド車の価値を高めるサービス「電動ドライブハウス」のコンセプトを紹介しました。このサービスは、ビークルトウホーム（V2H）用のシステム、太陽光パネルなどをパッケージ化し、ディーラーで販売する新しい提案で、今年度内に国内ディーラーで展開を始める予定とのこと。V2H自体は従来から存在する仕組みですが、それぞれの機器を専門の業者に依頼する手間がユーザーの負担になっていました。窓口を一本化するこ



HINO

大型トラック搭載の新開発ハイブリッドユニットを展示

日野自動車は、今夏発売する大型トラック「プロファイアハイブリッド」に搭載する新開発のハイブリッドユニットを展示。排気量を13リットルから9リットルにダウンサイジングする一方、11kWhのリチウムイオン電池を使用し、自動変速機に組み込んだ出力90kWの電気モーターを駆動させる仕組みになっています。

また、パワートレインだけではなく、地図情報とGPSデータをもとにした勾配先読み技術もユニークな機能です。人工知能で解析し、100キロメートル先までの勾配情報に応じた走行制御を可能としているとのこと。



YAMAHA

充電できる燃料電池カート「YG-M-FC」を展示

ヤマハ発動機は、充電できる燃料電池カート「YG-M-FC」を展示しました。EVのYG-MをベースにFCユニットを搭載しています。燃料電池車は、EVに比べ、充填時間が短いため、サービスの稼働率を高められるのが最大の長特です。カートはプロトタイプのようなのですが、すでに公道での実証実験に利用されており、石川県輪島市では4月に市の交通システム「ワーム」の定期運行ルートを含む約3キロメートルの市街地を走行。航続距離160キロメートル、充填時間約5分というスペックを活用し、1週間の実験期間中はフル稼働していたようです。



HONDA

電動化を全面に「クラリティPHEV」など展示

ホンダも電動化技術を全面に打ち出したブースを用意しました。二輪では着脱可能なバッテリー「ホンダ モバイルパワーバック」を搭載した「PCXエレクトリック」に、バッテリー充電ステーション、四輪では「クラリティPHEV」に搭載するパワートレインシステムを展示。また、モバイルパワーバックを搭載する軽快アクティブをテーマにしたパーソナルモビリティコンセプト「ESMOコンセプト」を世界で初めて公開しました。フロント2輪リア1輪の3輪式を採用し、アクティブさを演出するとともに、航続距離は45キロメートルとし、実用性も確保しています。



UD TRUCKS

巨大エンジン「GH11」や12速自動変速機などを展示

UDトラックスは、巨大な11リットルターボディーゼルエンジン「GH11」や12速自動変速機などを展示しました。GH11はカットモデルにして、ユニットインジェクターとコモンレールシステムの長所を合わせた燃料噴射システムや、燃焼室形状変更技術などを確認できるよつになっていました。また、自動運転技術に関する取り組みもパネル展示。経済産業省と国土交通省が実施する高速道路でのトラック隊列走行実験への参画や、自動運転技術を活用し、工場の生産性を高める取り組みなどを紹介しました。



mazda

「MAZDA3」に搭載された技術を紹介

マツダは「マツダ3」をブース中央に展示し、同モデルに搭載するさまざまな技術を紹介。マツダ3は日本仕様の発売日だったため、北米仕様の展示でしたが、国内で実車に触れる機会はまだまだ希少だったため、車両周辺は多くの来場者で溢れていました。マツダ3に搭載される技術で目玉になるのが、火花点火制御圧縮着火によりスパーリーンパーンを実現する「スカイアクティブX」と、ボディやシートなどを見直して「人馬一体」の思想を具現化した「スカイアクティブビークルアーキテクチャ」です。マツダ3は新世代商品群の第1弾となり、今後はこれらの技術を複数の車種に展開していく計画です。



『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』 のご案内

8月19日(月)に東京「二子玉川ライズ ガレリア広場」にて開催

一般社団法人 日本自動車工業会(会長:豊田 章男)は、一般社団法人 日本二輪車普及安全協会(会長:伊東孝紳)との共催により、8月19日(月)に東京「二子玉川ライズ ガレリア広場」にて、『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』を開催いたします。

同イベントは、1989年に政府が二輪車の交通事故撲滅を目的として制定した「バイクの日(8月19日)」に、二輪車ユーザーをはじめ広く一般の方々へ、交通安全意識の啓発とバイクの日の社会的認知の向上を図るとともに、バイクの楽しさ・魅力を感じていただくために開催するものです。

当日は、タレントの大原優乃氏によるヘルメットのあご

ひも適正着用の呼びかけステージ、レイザーラモン RG氏/バッファロー吾郎・竹若氏/とろサーモン・村田氏らによるYouTubeライブ配信:二子耐バイクトーク、警視庁・クイーンスタースによる交通安全ステージ、国内二輪4メーカーの人気車種の展示など、様々な企画を予定しております。

つきましては、『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』に是非お越しいただきたく、ご案内申し上げます。

※ご入場は無料です。(会場スペースの関係上、ステージの席数に限りがありますので、予めご了承ください)

『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』開催概要

- 開催日時：2019年8月19日(月) 11:30~16:00
- 開催場所：東京「二子玉川ライズ ガレリア広場」(東京都世田谷区玉川2-21-1)
- 主催：一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本二輪車普及安全協会
- 後援：内閣府、警察庁、警視庁交通部、玉川警察署
一般財団法人全日本交通安全協会、一般社団法人全国軽自動車協会連合会
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会

問い合わせ先

『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』事務局
(フロンティアインターナショナル内)

植前(090-6891-9252)・馬場・千葉

TEL : 03-5778-4844

Mail : frontier-pr@frontier-i.co.jp

主催者連絡先

日本自動車工業会 広報室

TEL : 03-5405-6119

日本二輪車普及安全協会

TEL : 03-6902-8190

■ 主な内容

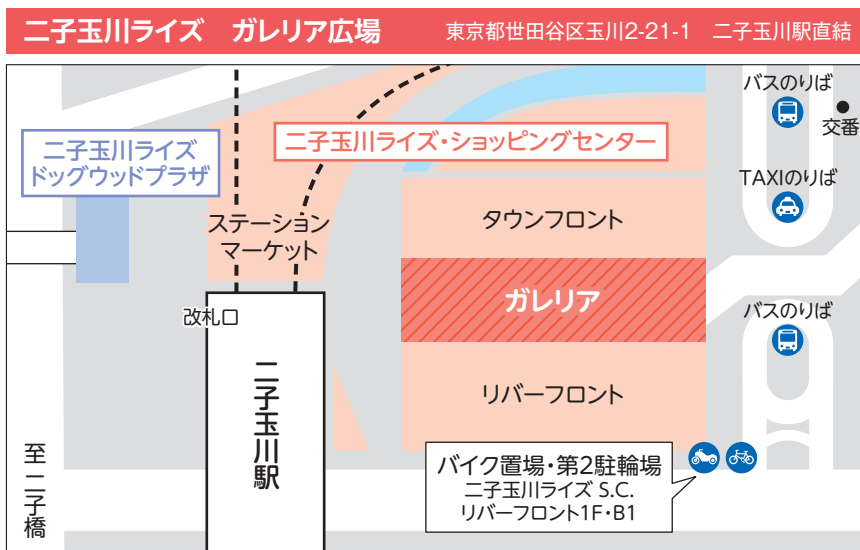
(ご注意) 内容は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

①ステージ

- 11:30 ~ 11:55** **開会式 【メインステージ】**
出席者：日本自動車工業会 二輪車特別委員会 委員長
日高祥博(ヤマハ発動機(株) 代表取締役社長)
日本二輪車普及安全協会 専務理事 林田武人 他
ご来賓(予定)：内閣府代表、警視庁代表、玉川警察署代表
- 12:00 ~ 12:35** **ゲストトークショー 【メインステージ】**
大原優乃氏、レイザーラモンRG氏らによるトークショー
- 12:45 ~ 13:15** **警視庁交通安全ステージ 【メインステージ】**
警視庁・女性白バイ隊「クイーンスターズ」とヒーポ君による交通安全啓発ステージ
- 13:30 ~ 16:00** **ヘルメットのおごひも適正着用の呼びかけステージ 【メインステージ】**
大原優乃氏がヘルメットのおごひも適正着用を呼びかける。
- 13:30 ~ 16:00** **YouTube ライブ配信：二子耐バイクトーク 【バイクトークステージ】**
レイザーラモンRG氏/バッファロー吾郎・竹若氏/とろサーモン・村田氏らによるトークショー。
YouTubeでライブ配信する。

②車両展示

- 11:30 ~ 16:00** **バイク車両展示** ※国内二輪車4メーカー人気車両、警視庁白バイ(2台)
- 11:30 ~ 16:00** **展示ブース** ※警視庁・交通安全展示、JAPAN RIDERS宣言 他



■ バイクの日関連サイトURL：<https://www.jmps.or.jp/bikegekkkan/bikeday/>



二輪車の楽しさ、利便性、有用性などバイクライフの素晴らしさを、より多くの皆様にご理解していただくためにバイクの日(8/19)を中心とした「バイク月間」が2000年7月からスタートし、全国各地で様々な活動がされています。
【日本二輪車普及安全協会ホームページ：<https://www.jmps.or.jp/bikegekkkan/>】

■ ゲストプロフィール



大原 優乃
(おおはら ゆうの)

経 歴：現在、年間30誌以上の表紙オファーが殺到するなど、現在もっとも雑誌の表紙を飾るタレントのひとりとして、グラビア誌を中心にテレビやラジオで活躍中。2018年には、雑誌の表紙を飾った回数が多い女性に送られる「第5回 カバーガール大賞」を受賞。2019年も数々の映画出演が決まっており、女優としても目が離せない存在。



レイザーラモン RG
(れいざーらもん あーるじー)

経 歴：結成22年のお笑いコンビ「レイザーラモン」のボケ担当。多数のパラエティ番組に出演しており、「あるあるネタ」がとても人気。またレイザーラモン RGを中心に、バイク好き芸人で結成されたツーリングクラブは、こだわりの愛車にまたがり、颯爽と走る気持ちよさに部員数も急増中！



**バッファロー吾郎
竹若 元博**
(ばっふぁろーごろう
たけわか もとひろ)

経 歴：人気お笑いコンビ「バッファロー吾郎」のボケ担当。吉本天然素材の結成メンバーとしても知られる。芸人からの評価が非常に高い。2008年には“真のコント日本一”を決める「キングオブコント」で初代王者に輝く。



**とろサーモン
村田 秀亮**
(とろさーもん
むらた ひであき)

経 歴：人気お笑いコンビ「とろサーモン」のツッコミ担当。2017年にはM-1グランプリで優勝し、ラストイヤーで13代目王者に。またお笑い以外にも、特技である「ナレーション」を活かし、TVCMなど様々なナレーションを担当し、活躍の幅を広げている。

自工会・エコドライブへの理解促進ツール 「e-ラーニングコンテンツ」掲載のご案内

一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田章男、以下自工会)は、エコドライブの理解促進を図るため、自工会Webサイトに「e-ラーニングコンテンツ」を掲載しました。

日本では、平成28年5月に「地球温暖化対策計画」が閣議決定されたことから、自動車の対策の一つに「エコドライブによるCO₂削減」が掲げられ、政府による普及推進が図られており、自工会としてもエコドライブの普及に努めています。

なお、2017年にはエコドライブの若年層への展開・定着を目的として、アニメーション*を同Webサイトに掲載しているところです。

今般、エコドライブについて、更にご理解・実施頂くことを目的に「エコドライブe-ラーニングコンテンツ(クイズ&ゲーム)」を制作しました。
(<http://jama-eco-drive.com>)

今回作成したコンテンツ(クイズ&ゲーム)は、既存のアニメーションをベースに、スマートフォンやPC上でエコドライブや地球温暖化等の知識を繰り返し学べるクイズを実施するとともに、ゲームでエコドライブの運転テクニックを競うものとなっています。

今後、できるだけ多くの方々にご覧頂けるよう、自工会Webサイトでの掲載に加え、関連団体にもご協力頂き、エコドライブの理解促進を図ってまいります。

ご参考

一昨年日本政府は、パリ協定を批准し、2030年度の温室効果ガス削減目標(2013年度比▲26%(運輸部門はCO₂排出量▲約28%))の達成に向けて、地球温暖化対策計画を策定しました。同計画は運輸部門の取組として「自動車単体対策」や「道路交通流対策」を始め、「国民運動の展開」の一環としてエコドライブの推進等が掲げられています。

当会は、温室効果ガス削減目標の達成に向けた活動の一環として、エコドライブへの理解促進に繋がる訴求ツールを制作・掲出し、普及拡大を図ることで社会に貢献してまいります。

※「やってみよう」エコドライブ



(http://www.jama.or.jp/eco/eco_drive/index.html)

「エコドライブe-ラーニングコンテンツ(クイズ&ゲーム)」



クイズ



ゲーム



<http://jama-eco-drive.com>

理系女子応援イベント

「Drive for the future～あなたの想いを走らせる仕事～」開催

2019年7月13日(土) 於:学研本社、7月15日(月・祝) 於:グランフロント大阪

一般社団法人 日本自動車工業会(会長:豊田 章男)は、7月13日(土)に学研本社ビル、7月15日(月・祝)にグランフロント大阪にて、理系女子応援イベント「Drive for the future～あなたの想いを走らせる仕事～」を開催いたします。

このイベントは自動車メーカーで働く女性のキャリアをイメージしてもらうことに加え、理学専門と仕事との繋がりを知ってもらい、進路・職業選択の幅を広げることを目的に、2015年から開催しています。

本年度は、自動車メーカーの第一線で活躍する女性エンジニアと理系女子大学生によるパネルディスカッション

や、学生時代に学んだこと・理系選択のきっかけ・現在の仕事内容について、レクチャーを実施いたします。

また、パネルディスカッションやレクチャーで感じた疑問や勉強・進学、就職や仕事のことなどを質問できるフリートーク女子会や、自動車メーカーの技術に触れることができる体験企画も予定しております。

報道の皆様におかれましては、理系女子応援イベントを通して、自動車メーカー各社における女性活躍促進に向けた取り組みを多くの方々にお伝えいただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

〈理系女子応援イベント Drive for the future ～あなたの想いを走らせる仕事～ 開催概要〉

日時	東京 2019年7月13日(土) 14:00～16:30 大阪 2019年7月15日(月・祝) 13:00～15:30
場所	東京 学研本社ビル (東京都品川区西五反田2-11-8) 大阪 グランフロント大阪 タワーB10階カンファレンスルーム (大阪府大阪市北区大深町3-1)
対象	女子中学生・女子高校生
コンテンツ	1. パネルディスカッション 女性エンジニアと理系女子大学生によるクロストーク 2. レクチャー 「理系×女子Story～私の進路選択と仕事内容～」をテーマとした女性エンジニアによる講演 3. 保護者向け進路講演会 2020年度大学入試改革から文理選択の視点まで、保護者の立場からみた進路選択に関する講演 4. フリートーク女子会 女性エンジニアへの質問会 5. 体験企画 VR(SUBARU)、エンジンカットモデル(ダイハツ工業)、Winglet(トヨタ自動車)、UNI-CUB・歩行アシスト(本田技研工業)の体験
主催	一般社団法人 日本自動車工業会
後援	内閣府、経済産業省、厚生労働省、一般社団法人 日本経済団体連合会
関連URL	理系女子・男子応援プロジェクト http://www.jama.or.jp/rikeijoshi/ 理系女子応援イベント https://seminar-entry.jp/drive/

2019年
10月1日
スタート!

クルマの税金が 下がります!

10月からは
うれしい悲鳴!

「自動車税」が
ずーっと下がる!

年間最大 ▼

4,500円!^{※1}

※1: 2019年10月1日以降に購入された新車
(自家用乗用車<登録車>)

「自動車取得税」
廃止!

「環境性能割」が
1%下がる!^{※2}

※2: 2019年10月1日~2020年9月30日
までの措置

詳しい情報は、下記のHPをご覧ください。

日本自動車工業会 <http://www.jama.or.jp/>

日本自動車販売協会連合会 <http://www.jada.or.jp/>

JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

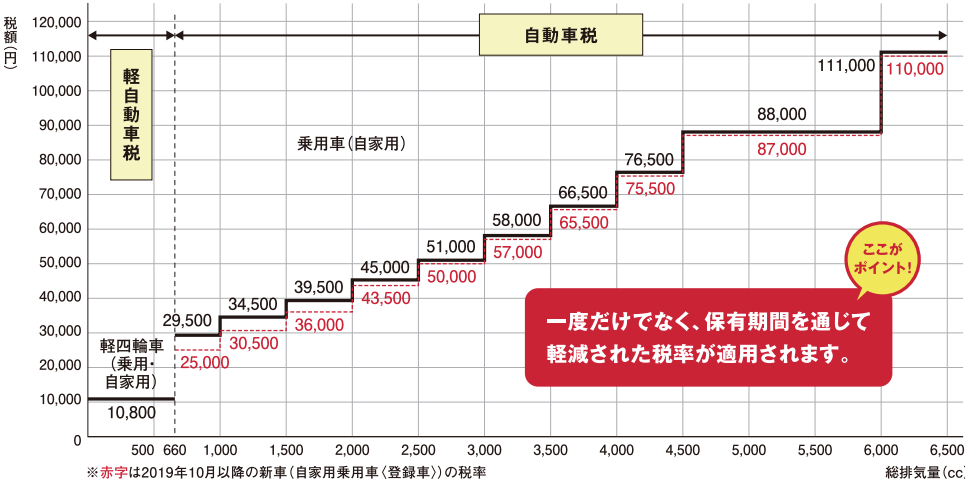
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

1 毎年の自動車税が最大4,500円下がります！

2019年10月以降に購入された新車(自家用乗用車(登録車))から、毎年かかる自動車税がすべての排気量で引き下げられます。例えば2000cc以下のクルマでは10~15%程度の減税に。2年目以降も同じ税額が適用されるため、保有期間を通じて減税となります。

■排気量ごとの税額変化



排気量	現行	引き下げ後
660cc超~1000cc以下	29,500	25,000
1000cc超~1500cc以下	34,500	30,500
1500cc超~2000cc以下	39,500	36,000
2000cc超~2500cc以下	45,000	43,500
2500cc超~3000cc以下	51,000	50,000
3000cc超~3500cc以下	58,000	57,000
3500cc超~4000cc以下	58,000	57,000
4000cc超~4500cc以下	66,500	65,500
4500cc超~5000cc以下	66,500	65,500
5000cc超~5500cc以下	76,500	75,500
5500cc超~6000cc以下	88,000	87,000
6000cc超~	111,000	110,000

2 購入時にかかる自動車取得税(最大3%)が廃止！

2019年10月の消費税率10%への引き上げにともない、自動車の購入時に課税される自動車取得税が廃止されます。

[2019年9月30日まで]

自動車取得税	登録車	
	登録車	3%
軽自動車・営業用	2%	

[2019年10月1日以降]

廃止

3 環境性能割が導入。当初1年間(2019年10月1日~2020年9月30日)は1%軽減！

2019年10月以降、自動車の購入時に環境性能に応じて課税する「環境性能割」が導入されます。新車・中古車とも対象となり、省エネ法の燃費基準達成度などに応じた税率が、取得価額に対して課税されます(取得価額が50万円以下は免税)。なお、2019年10月1日から1年間限定で、税率が1%分軽減されます。

[自家用乗用車]

	電気自動車等*	2020年度燃費基準			左記以外
		+20%	+10%	達成	
登録車	非課税		1%	2%	3%
軽自動車	非課税			1%	2%

※電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車、天然ガス自動車、クリーンディーゼル乗用車

ここがポイント!

環境性能割の臨時的軽減措置(2019年10月1日~2020年9月30日)

消費税率引き上げにともない、2019年10月1日からの1年間に購入された登録車(自家用乗用車)・軽自動車(自家用乗用車)について、環境性能割の税率から1%分が軽減されます。

[登録車]

(自家用乗用車のみ)

基本税率	臨時的軽減(2019.10~2020.9)
非課税	非課税
1%	非課税
2%	1%
3%	2%

[軽自動車]

(自家用乗用車のみ)

基本税率	臨時的軽減(2019.10~2020.9)
非課税	非課税
1%	非課税
2%	1%

さらに

エコカー減税、グリーン化特例が延長されています！

- 自動車取得税のエコカー減税は、自動車取得税廃止(2019年9月30日)まで継続。
- 自動車重量税のエコカー減税は、2年間(2019年5月1日~2021年4月30日)延長。
- グリーン化特例は、2年間(2019年4月1日~2021年3月31日)延長。

詳しい情報は、
下記のHPをご覧ください。

日本自動車工業会
http://www.jama.or.jp
日本自動車販売協会連合会
http://www.jada.or.jp

2019年度 小学生を対象に「クルマのある風景」の写真を募集

経済広報センター(会長：中西 宏明)は、小学生を対象に「クルマのある風景 フォトコンテスト」(主催：一般財団法人 経済広報センター 後援：一般社団法人 日本自動車工業会)を2019年6月10日より実施しています。

本コンテストは、将来のモビリティ社会を支えていくことが期待される若年層の関心を高めるべく、子どもたち(小学生)に、クルマへの親しみを覚えてもらうこと、関心をもってもらうことを目的に、2017年から実施、今年で3回目の開催となります。昨年は、5,365点の応募がありました。

■2019小学生「クルマのある風景 フォトコンテスト」概要

テーマ	「クルマのある風景」 自宅で、街角で、旅先で撮ったクルマ、家族といっしょに撮ったクルマ、自然や風景の中で撮ったクルマなど、クルマが写っている写真を募集します(応募者本人が撮影した作品に限ります。)
応募資格	日本在住の小学生
応募期間	2019年6月10日～9月20日
賞品	最優秀賞…… 5名(図書カード10,000円分) 優 秀 賞 …… 15名(図書カード 5,000円分) 佳 作 …… 10名(図書カード 3,000円分)

■審査委員(敬称略)

谷 和樹(玉川大学教職大学院 教授)
潮田 正三(日本報道写真連盟 東日本本部理事)
古川 博一(日本自動車工業会 広報室調査役)
佐桑 徹(経済広報センター 常務理事)

■審査結果

2019年10月、経済広報センターのウェブサイトにて入賞者のみ発表
※募集の詳細については、経済広報センターのウェブサイトをご覧ください。

お問合せ先

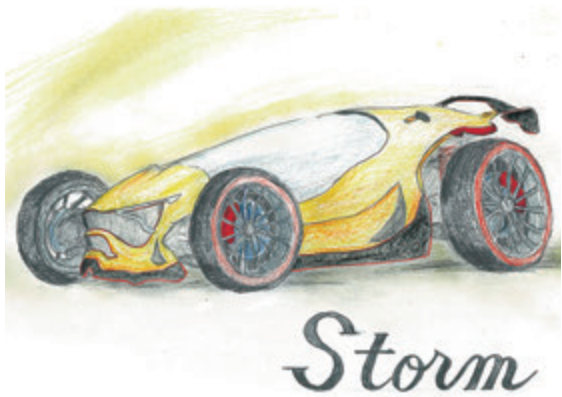
経済広報センター 国内広報部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階
TEL:03-6741-0021 FAX:03-6741-0022

カーデザイナーの育成に向け自技会、自動車メーカーの取り組み

カーデザイン賞
(中学生の部)

Storm

魚住 拓磨さん(岡山白陵中学校2年)



魚住さん(左から2人目)
受賞後に現役カーデザイナーからアドバイスを受ける

《講評》クルマ好きが素直にドキドキするデザインのくるまです。フォーミュラカーを思わせるオープンホイールの迫力あるスタイリングデザインは、ひと目見て運転する喜びをしっかりと表現出来ています。空力を考え車体形状に沿わせたリアウイングは特徴的な造形となっています。さらにウインカーにもなるヘッドライトの形状はフロントマスクの特徴に一役買っています。低く構えたフロントノーズ、ワイドトレッド、ショートホイールベースなど、クルマ好きに刺さるデザイン提案です。

ダビンチ賞
(高校生の部)

Free crawler

人を包み込むバリアフリーの車椅子

滝川 麻友さん

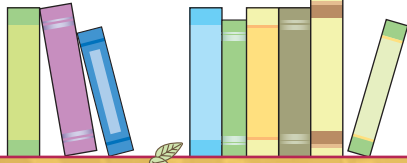
(お茶の水女子大学附属高等学校2年)



滝川さん(左)
受賞後に現役カーデザイナーからアドバイスを受ける

《講評》タイヤでもクローラーでもない、ダンパーの伸縮を使った駆動方式のアイデアが新しい。これは電車の乗り降りなど健常者が普段気づかないような小さな段差も簡単にスムーズに乗り越えて行けるので、これを必要とする人に自由な移動を実現することが出来る車椅子です。ドアの形も特徴的にデザインされており、球体の外観デザインは周りの人達から見ても親しみが持てます。アイデアの一つ一つに作者の優しさが伝わって来るととても素晴らしい提案です。

(※資料は自技会提供)



CAR Manufacturer 自動車博物館 関連施設 紹介シリーズ

ヤマハ発動機 / コミュニケーションプラザ

「世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを目的に人々の夢を知恵と情熱で実現し、つねに「次の感動」を期待される企業をめざすヤマハ発動機グループ。コミュニケーションプラザには、世界で使われているさまざまな分野の製品やエポックメイキングな歴史製品の数々、そしてヤマハ発動機の最新技術や活動、情報が集約されています。

製品展示コーナー

世界各地で暮らして役立ち、人々に愛されている二輪車を中心に、ボートや船外機、スノーモビル、ATV、自動車エンジン、電動アシスト自転車、電動車いす、ゴルフカー、産業用無人ヘリコプター、発電機、産業用ロボットなどを展示しています。



体験コーナー

当社の製品を体感しながらご理解いただくために、製品展示スペースには各所にシミュレーター、乗車可能なモデル、映像モニター等を設置しています。

企業の歴史

創業の経緯や音叉マークの由来をはじめ、第一号製品と創業当初からのDNAであるレースへの挑戦、初代社長から受け継がれてきたスピリット、多様な事業をもつグローバル企業への歩みなどをシアターでの映像上映とともにご紹介しています。

レースの歴史

創立以来続く挑戦の歴史——当社のレース活動についてご紹介しています。各レースカテゴリーの歴史的な車両やトロフィー、半世紀を超える歴史が俯瞰できる年表を展示。記念誌が閲覧できるタッチパネル操作のモニター、関連映像のスクリーン上映もあります。

製品の歴史

二輪車をはじめ、ボートや船外機などのマリナー製品、四輪バギーなどのレクリエーション製品、パワープロダクト、自動車エンジンなど、創業から現在に至る歴史的な製品をデジタルコンテンツも使って展示しています。展示コレクションは動態保存（稼働できる状態で保管）が原則となっています。



プラザラウンジ

過去の製品カタログや当社の刊行物(PDF)や歴史映像をタッチパネル操作でご覧いただけます。また、二輪車やマリナー製品のさまざまな専門誌も閲覧できます。プラザカフェからテイクアウトした飲み物を楽しみながら、見学の途中でくつろいで頂くスペースもご用意しています。

プラザカフェ

営業時間 10:00~16:00(お食事のラストオーダーは14:00)

開館日時

●平日 9:00~17:00

●第2・第4土曜日と次の日曜日 10:00~17:00

- ・業務の都合によって観覧やカフェの利用を制限させていただきます。場合があるためあらかじめご了承ください。
- ・年末年始/ゴールデンウィーク/夏季休暇についてはウェブサイトでご確認ください。

入館料 無料

<https://global.yamaha-motor.com/jp/showroom/cp/info/>
QRコードよりご覧いただけます。



アクセス

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

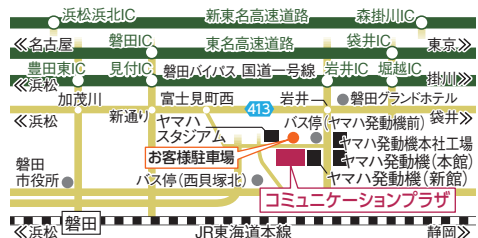
電話:0538-33-2520 Fax:0538-33-2530

電車でお越しの場合

- JR磐田駅よりタクシーで約10分(約4.5km)
- JR磐田駅前バスターミナル1番のりば遠鉄バス「城之崎経由磐田営業所」行き「ヤマハ発動機前」下車徒歩約2分
- JR磐田駅前バスターミナル1番のりば遠鉄バス「東新町」行き「西貝塚北」下車徒歩約12分

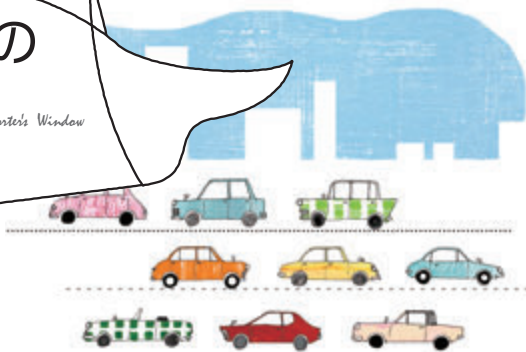
車でお越しの場合

- 新東名高速道路・森掛J11Cより約17.5km、浜松浜北ICより約19km
- 東名高速道路・磐田ICより約5km、袋井ICより約6.5km
- 磐田バイパス・岩井ICより約2km



携帯電話・スマートフォンでQRコードを読み取ると、詳細な地図をご覧いただけます。





毎日新聞社

こしかつよし
小坂 剛志

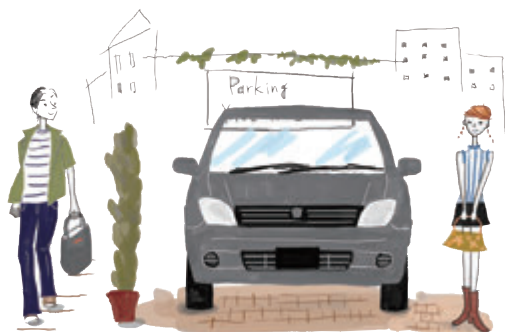
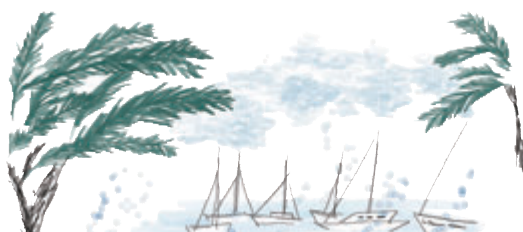
くるまと走った支局時代


①「これまでは、どんな勤務地で取材されたんですか?」。東京に赴任し、あいさつ回りで何度か聞かれることがあった。島根、兵庫、高知、奈良。いろいろな地方を渡り歩いた。支局時代はマイカー取材で、クルマとともに走り回った10年間だった。夜回りの途中で食べたパンやおにぎりの袋がいつも車内に散らかり、灰皿はタバコの吸い殻であふれていた。「ゴミはいいけど、ほこりっぽいのはねえ…」と先輩女性記者に冷たい視線を向けられた。

②免許を取ったのは、入社直前。初任地の島根県松江市は雨が多く、雨粒がフロントガラスを激しく打ちつける中、慣れない運転に気が滅入った。晴れた日には、車窓から見える宍道湖の夕日や日本海の壮大な景色に励まされる思いだった。

③記者になって数年後、青色のマツダのアクセラに買い換えた。ローンで買った愛車のおかげで運転も好きになった。地方の道の駅は美食が多く、高知では四万十川の天然鰻に舌鼓を打った。奈良では山奥の雲海を見るため、1時間近く山道を運転した。

④私にとっての「くるまの記憶」とは、車窓から



の景色や車内で食べたコンビニ飯、道の駅、タバコの臭いも引くくめたものだ。世の中にモノはあふれているが、そんな製品はくるま以外にない。自動運転やシェアリングは世の中を便利にするが、クルマと思い出をつくる人たちが少なくなるのは、少し寂しい気持ちもする。..... 



OPEN FUTURE

TOKYO MOTOR SHOW 2019

第46回 東京モーターショー 2019
10月24日(木) - 11月4日(月・祝)
東京ビッグサイト - お台場周辺エリア